

熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2026年3月調査)

「熊本県の観光・レジャーに関するアンケート(2026年3月調査)」を実施した結果を公表いたします。(発送数:283、回収数:112、回収率:39.6%、回収期間:2026年3月2日~2026年3月11日)本アンケートは、県内の観光・レジャーの動向をいち早く捉えるために実施しております。

1. 熊本県観光DI まとめ

	現状判断DI (1月~3月)	見通しDI (4月~6月)
合計(N=112)	46.0	54.0
行政・協会(N=45)	47.8	58.3
宿泊施設(N=28)	38.4	50.0
集客施設(N=13)	50.0	53.8
飲食・物販(N=5)	60.0	65.0
交通・代理店(N=17)	45.6	45.6
その他(N=4)	50.0	56.3

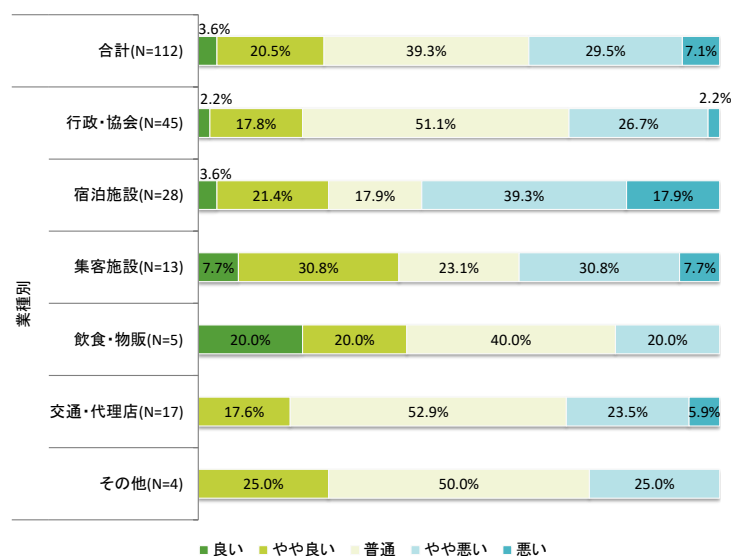
1~3月の熊本県の現状判断DIは46.0となり、前期(55.7)から9.7pt低下した。業種別にみると、行政・協会、宿泊施設、交通・代理店の3業種が景況判断の節目である50を下回り、集客施設、飲食・物販の2業種が50を上回っていた。

中国以外のインバウンド客や日本人観光客の増加により景況感が改善したといったコメントが一部見られるものの、全体としてはインバウンド観光客数の伸びの鈍化、なかでも春節期の中国人観光客の減少を指摘する声が見られ、現状判断DIは大幅に低下する結果となった。

見通しDIは54.0となり、前回(44.8)から9.2pt上昇した。交通・代理店以外の5業種でDIは50以上であった。

見通しを良くなると判断する要因として、学校行事での来訪者の増加やデスティネーションキャンペーンに向けた取り組み、インバウンド・個人客の増加への期待といったコメントが見られた。一方、悪くなると判断する要因として、国際情勢の不安定さに伴うガソリン価格の高騰などのコスト上昇や、予約数の伸び悩みといったコメントが見られた。

2. 1~3月期の動向、景況感



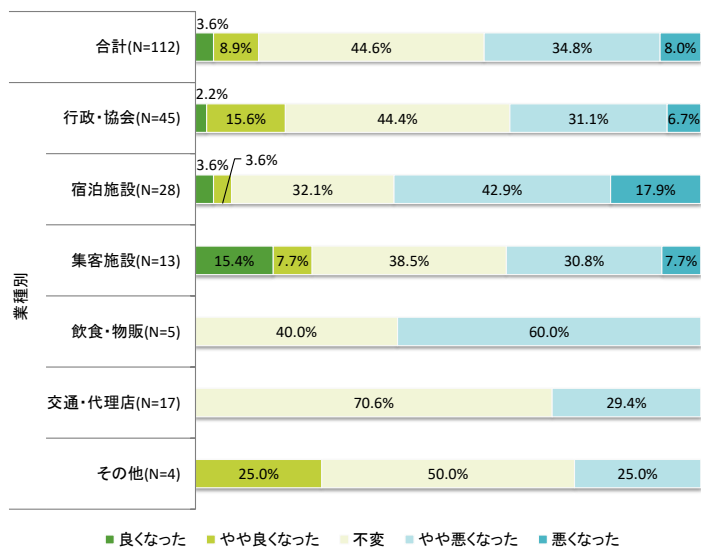
1~3月の景況感は、全体では「良い」と「やや良い」の合計が24.1%、「悪い」と「やや悪い」の合計は36.6%となった。

業種別にみると、宿泊施設で「悪い」と「やや悪い」の割合が過半数を占める。

【コメントの抜粋】

- 良い
インバウンドの集客が増えた事により収益も増加しました。(飲食・物販)
- やや良い
台湾からの団体・個人観光客(香港含む)が多い。日本人の個人客が多い。(集客施設)
- 普通
1月こそ気温の関係で客足は鈍かったが、2月の連休・3月の卒業旅行などで盛り返しつつある。(集客施設)
- 普通
例年と比較して数値上の大きな違いはありません。(交通・代理店)
- やや悪い・悪い
11月までと比べ全体的に動きが鈍い。春節が2月半ば過ぎになったのもひとつの原因と思われる。社内の料金改定で高くなったことも影響してと思われる。(宿泊施設)
- やや悪い・悪い
今年度は春節によるインバウンド客があまり見られなかった。(行政・協会)
- やや悪い・悪い
インバウンドの微減。(宿泊施設)

3. 2025年10~12月期に比べた1~3月の動向、景況感

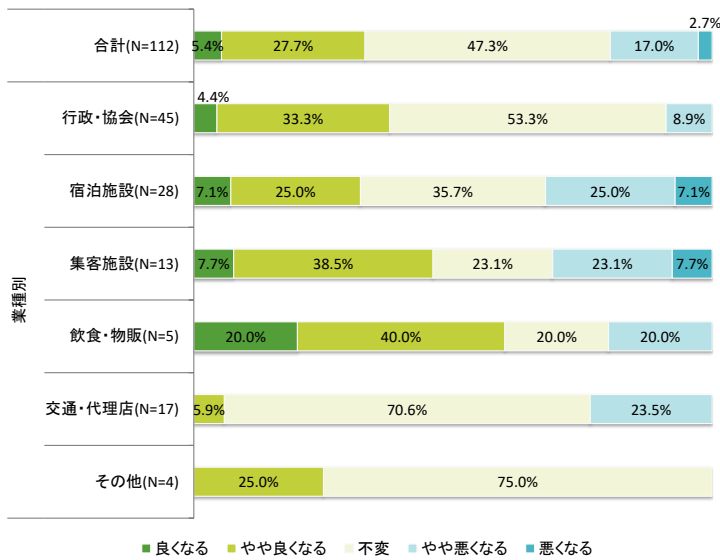


2025年10~12月期に比べた1~3月の動向・景況感は、全体では「良くなった」と「やや良くなった」の合計が12.5%、「悪くなった」と「やや悪くなった」の合計は全体で42.8%となり、後者の比率が高い結果となった。

【コメントの抜粋】

- 良くなった
客数が増えている。(集客施設)
- やや良くなった
連休を利用した旅行や帰省などの来訪者が多かったため。(行政・協会)
- 不変
海外は弱くなっているが、チャーターなどを実施しており、合算すると前年を維持できているため。(交通・代理店)
- やや悪くなった・悪くなった
飲食店なので年末がどうしても忙しく、それと比べると1~3月は年末に比べて落ちる印象。(飲食・物販)
- やや悪くなった・悪くなった
10~12月期は前年並みに推移。1~3月期は前年割れ。(宿泊施設)

4. 今後、6月までの業況の見通し



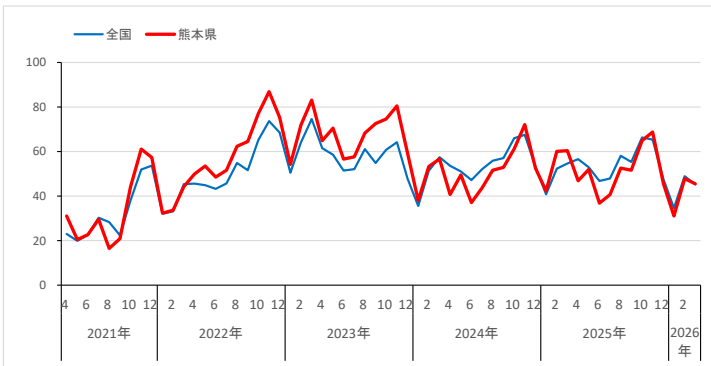
今後6月までの業況の見通しは、全体で「良くなる」と「やや良くなる」の合計は33.1%、「悪くなる」と「やや悪くなる」の合計は19.7%となった。
業種別にみると、飲食・物販で「良くなる」と「やや良くなる」の合計が過半数を占める。

【コメントの抜粋】

- 良くなる
修学旅行が例年より多い。(宿泊施設)
- やや良くなる
デスティネーションキャンペーン実施に向けプロモーションや事業を予定しているため。(行政・協会)
震災から10年目で熊本城に来る個人客が増える予想。(集客施設)
- 不変
インバウンドの集客が増えつつあるため。(飲食・物販)
- 悪くなる
海外については厳しくなるが、支店としてはあまり影響はない。国内については影響を与えるような大きな要因はいまのところ無さそう。原油高は若干影響する。(交通・代理店)
- やや悪くなる・悪くなる
国際情勢及びその影響によるガソリン価格高騰。(行政・協会)
3月以降の予約数の伸びが昨年と比べて悪い。(宿泊施設)

5. 宿泊稼働指数の動向

①月次別(2021年4月～2026年3月)

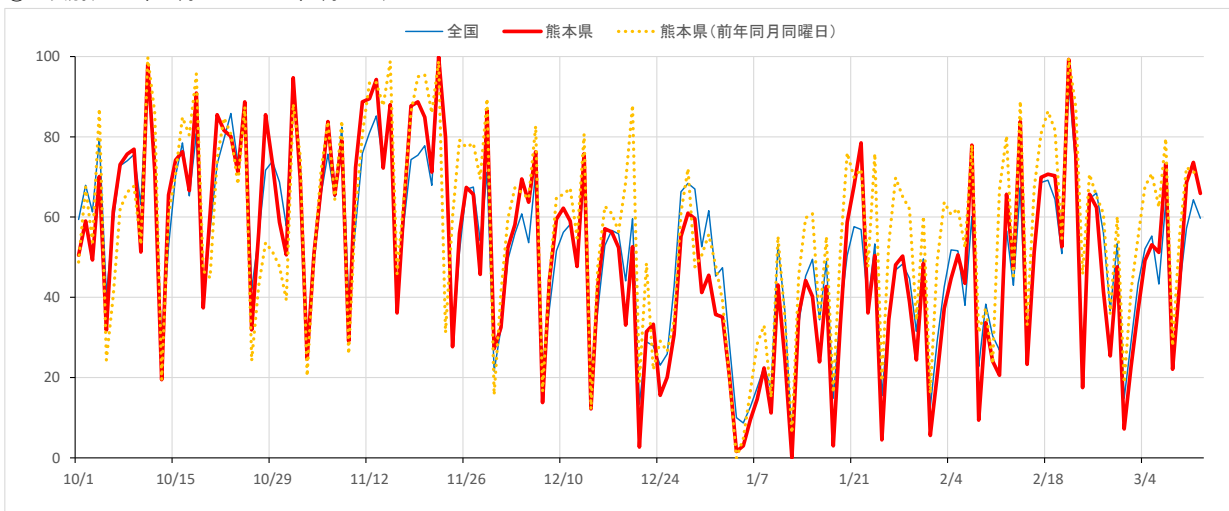


2026年1月における熊本県の宿泊稼働指数は31.1(前年同月差▲11.2pt)、2月は48.9(同▲12.3pt)、3月は45.2(同▲14.9pt)となった。

2025年11月から5ヶ月連続で前年同月の指数を下回っており、特に1～3月は低下幅が大きい。全国同月指数との比較では、3月は全国値をわずかに上回ったものの、全体として全国を下回る月が続いている。

地域別にみると、荒尾市、菊池市、御船町、芦北町などでは、今期の宿泊稼働指数が県全体の水準を下回って推移している。同地域のDI調査におけるコメントを見ると、春節期の中国人観光客の減少や、全体的なインバウンド需要の鈍化を指摘する声が挙げられている。

②日次別(2025年10月1日～2026年3月12日)



熊本県の宿泊稼働指数を日次別(原数値)で見ると、期間全体で平日、土日祝日ともに前年を下回る水準で推移している。特に1月上旬から中旬にかけては低水準の日が目立ち、年始休暇後の需要の反動減などの影響がうかがえる。2月以降も3連休(2/21～23)は比較的高水準であったものの、前年と比較すると同水準かおおよそ下回る水準で推移している。3月に入るとやや回復基調にあり、全国と同水準で推移しているが、前年と比較すると低い日もみられる。

指数の前年同期差をみると、プラスとなった日は、1月に3日、2月に2日と限られ、上述の通り、全体として低下傾向が続いている。

全国との比較では、1月は平日、土日祝日ともに熊本県の指数が全国を下回る日が多かったものの、2月以降は平日を中心に熊本県の指数が全国を上回る日もみられた。

用語解説

※DI(ディフュージョン・インデックス)

同調査におけるDIは、現在の景況感(現状判断)、現在と比べた3ヶ月後の見通し(先行き判断)に対する5段階の判断に、それぞれ点数を与え、これらの回答区分の構成比(%)を乗じたものである。(良い…+1、やや良い…+0.75、変わらない…+0.5、やや悪い…+0.25、悪い…0)。DIが50を超えた場合、景気が上向いていることを示す。

※宿泊稼働指数

宿泊稼働指数は日次の空室の水準を指数化したもので、(公財)九州経済調査協会が推計・公表。原数値は0から100の間の数値をとり、稼働状況が良い場合は100に、稼働状況が悪い場合は0に近づく。なお、2020年4～6月分については、緊急事態宣言による休業が多く発生していたことから、同期間に営業していた施設のみを分析対象としている。具体的には、以下の式より算出している。

$$100 - \left(\frac{\text{当日の空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}}{\text{当日を含む過去730日の最大空室数} - \text{当日を含む過去730日の最小空室数}} \right) * 100$$

本稿では、①月次別では、日次(原数値)データを7日間周期のデータとみなして要因分解し、曜日要因を除いたものを単純平均したもの、②日次別では原数値を使用している。